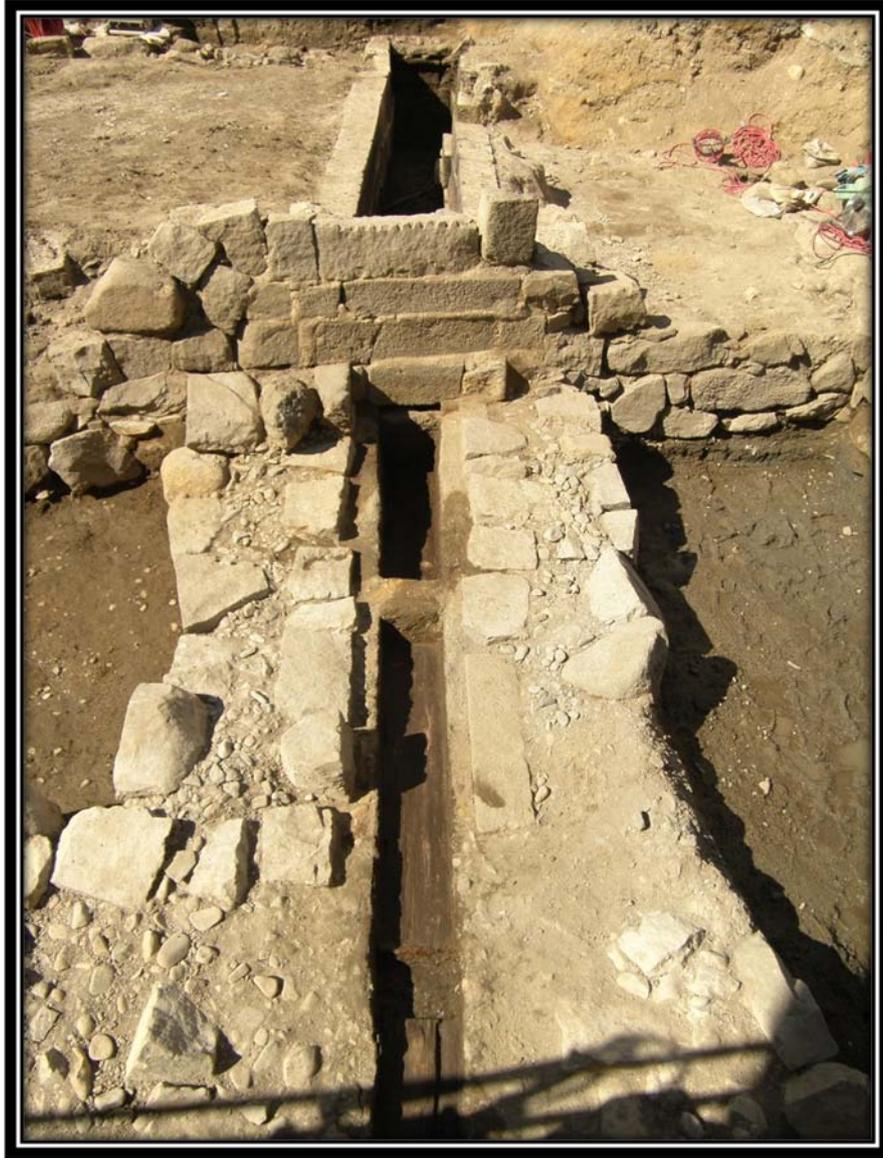


# 亀井戸跡

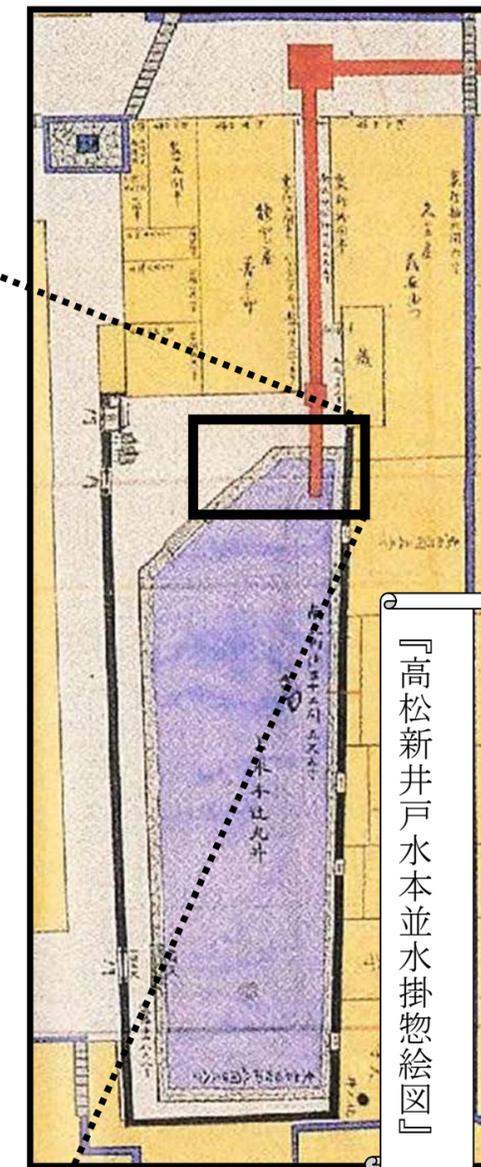
—高松丸亀町商店街G街区第一種市街地再開発事業に伴う発掘調査—  
現地説明会資料



亀井戸跡の取水施設と導水路

日時 平成22年8月22日（日）午後1時～  
場所 高松市鍛冶屋町  
主催 高松市教育委員会教育部文化財課  
協力 高松丸亀町商店街G街区市街地再開発組合  
戸田建設株式会社

# これまでの発掘成果と絵図



(財) 鎌田共済会郷土博物館 蔵



内側の石垣を埋める土から出土した軒丸瓦



調査区垂直写真（写真の上が北）

## 文献・絵図に見る亀井戸跡

亀井戸跡は現在の高松市鍛冶屋町に造られた上水道の水源となった井戸（貯水池）跡で、江戸時代の文献では新井戸とも呼ばれています。1640年代中頃に描かれたと考えられる『高松城下図屏風』には亀井戸の場所に水源の表現があり、さらに『高松藩記』には高松藩主松平頼重が正保元（1644年）年に暗渠工事を行ったという記述が見られます。このことから、亀井戸は17世紀中頃に造られた可能性が最も高いと考えられます。いずれにしても、亀井戸跡は江戸時代の高松において湧水を利用した本格的な上水施設の水源と言えます。なお、高松の城下町に造られた上水道には亀井戸の系統のほか、大井戸（瓦町）や今井戸（麿屋町）など他の系統もあります。

天保年間（1830～44年）頃に描かれた『高松新井戸水本並水掛惣絵図』には、亀井戸からどのような順序で水を引いていたのかが詳しく記されており、それによれば亀井戸は主に城下町の東側に水を供給していたことが分かります。その範囲は、古馬場町・今新町・丸亀町など19町にもおよびます。これらの地域には多くの町長屋があり、そこに住んでいた人々にとって亀井戸は欠くことのできない存在だったものと考えられます。同絵図によると、井戸の大きさは、南北が約61.7m、東西が約16.0m、平面の形は北西隅を斜めに欠いた長方形だったことが分かります。なお、19世紀中頃の亀井戸とその周辺の様子は、嘉永7（1854）年に描かれた『讃岐国名勝図会』からも知ることができます。

## 調査の成果

発掘調査は、絵図で示された亀井戸跡において平成22年7月26日より開始し、同年9月末までに合計約890㎡を調査する予定です。現在は、調査対象地の北側をL字状に約200㎡調査しています。

今回の調査で、亀井戸に関わる石垣・導水路・取水施設などの遺構が見つかりました。

### ◆井戸の形

調査区の北側と東側の端で、東西・南北方向の石垣を検出しました。さらに、調査区北側の東西方向の石垣（外側の石垣）から南へ約5.2mの位置でも、東西方向の石垣（内側の石垣）を確認しました。内側の石垣は、東側では調査区東端の南北方向の石垣と接続し、西側では斜めに曲がって南西方向に造られています。内側と外側の石垣の関係ですが、外側の石垣を埋めたのちに内側の石垣が造られており、少なくとも内側の石垣が新しいことが分かります。

内側の石垣は、残りの良い所で高さが1.3m程度あり、このことから井戸の水を貯める部分の深さは1.3m以上あったことが分かります。石垣は、30～60cm程度の大きさの石を「野面積み」という積み方で積み上げています。石垣の石には、花崗岩や凝灰岩などが使われています。

### ◆取水部分の構造

井戸の水を城下町へ引くために、井戸内部の北東側に出島状に築いた水を集める施設（取水施設）を造っています。取水施設は、井戸底部よりも1段高く石を積み上げ、その内側は溝状となっています。取水施設の内側には、幅33cm、高さ18cmの木樋と呼ばれる水を流す木の管を据えていました。木樋は底板が良好に残っていました。木樋を検出した長さは約4mで、木樋の南端の方が北端よりもわずか3cmほど低くなっています。

取水施設の北側には、凝灰岩を長方形に削った石を積み上げて導水路を造っています。導水路は検出した長さが約6m、内側の幅が70cmで、導水路の上には板石の長い方を東西に置いて蓋としていました。導水路は調査区の北側にも続いており、取水施設に設けられた木樋から導水路を通して北側の城下町へ水を流していたと考えられます。

### ◆井戸の埋め戻し

内側の石垣で囲まれた範囲は、主に砂で埋められていました。その砂には近代の遺物が含まれていることから、井戸は近代以降に埋められたことが分かります。水神社境内に建てられていた初代市長赤松渡撰の『亀井霊泉碑』によれば、明治24（1891）年に約7.3m四方に縮小したと記載されています。

## まとめ

調査途中のため変更する場合がありますが、現在のところ以下の3点の成果を得ることができました。

1. 江戸時代の絵図に示された場所で井戸を検出し、19世紀に描かれた『高松新井戸水本並水掛惣絵図』や『讃岐国名勝図会』で表現されている北西隅が斜めに欠ける井戸の形と一致することが明らかとなりました。
2. 井戸の水は、木樋から導水路を経て北側へ流れていたことが分かり、どのような仕組みで水を供給していたのかということを知ることができました。
3. 亀井戸を調査したことで、高松市の上水道の歴史の一端が明らかとなり、なおかつ近世の土木技術の水準がどれほど優れていたのかということを考えるうえで重要な情報が得られました。